

祝 VEC創立50周年

1975年(和50年)VECは、債務保証限度額64百万円、債務付金利7%にて、ベンチャー起業を支援するために創立されました。その頃からずっと今も支えて下さっている方もいらっしゃると思います。皆様のおかげで続けて来られたことに、今一度感謝を申し上げます。今回は50周年号として、交流会参加された方々や賛助会員様などにインタビューした結果です。質問はたったの2つ。

- 私がベンチャー支援をする理由(わけ)
- 50歳のVECにひと言

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
関西支部

前関西支部長 本田様

■挑戦する若者を援護するのは先人の役目。私も風速計開発費でVECにお世話になった。当時は牧野昇氏、堀場雅夫氏、本田宗一郎氏などを相手に気合でプレゼンして、通してもらった。今もトーニック(株)として風速計は活かされている。

- 挑戦を忘れたらアカン。

百々さん、柳野さん、梶屋さんのようなユニークで優秀な方々の意志をVECは引き継いで欲しい。



本田様

■前事務局長に誘われて支援の世界に入ったが、奥が深くハマった。今はZ世代とうまくつき合っていく方法を勉強している。

- VECの強みは経済産業省とのつながり。

今は途切れてしまい、他の組織と差別化できておらず、魅力がなくなったように思う。今一度、VECの本質を真剣に考え、存在意義や目的を問い直す時期ではないか。交流会の講演も参加者目線で本当に役に立つ内容なのか、真剣に考えて欲しい。「ちょっと困ってるんやけどな～」と気楽に相談できる場であってほしい。ベンチャーの成功者の話が聴きたい。政策投資金融公庫のベンチャー優遇制度の講演は良かった(2023.10)案内は事務局名で出すのではなく、支部長名で案内すべきでは？

■ベンチャーはこれからの日本にとって必要だから。

- 今のVECには同年代が少なく、親し

くしたいと思う人もおらず、有益な時間にならない。

VECは根本に戻って、スタートアップ支援を考えるべきではないか。どうやったらいいかという、言うは易し行うは難きではあるが、起業に成功された人の失敗談(特に中小企業のトップ)などは聞いてみたい。

- ベンチャーによって人が育つ、技術が育つ、社会が育つ、そして国が育つ。

発明の種を未来に繋ぐため、知財戦略を練り、法律条文を解いて盾となり成長を促し、起業の夢を現実にすることは世の役にたつ。ひいては日本産業を力強くする。

- 今のVECはただの飲み会になってしまった。新しい事業を成立させる『しかけ』が必要なのにVECにはアイデアがないように思う。しかし、まだ期待している。

■昨今のベンチャーキャピタルの動向や、AI/LOTといったイノベーション技術が世界に浸透し始めている社会的な変革を肌で感じたので、歴史あるVECこそが世界で通じるユニコンテクノロジーを支援する団体としてふさわしいと思う

- 昨今、超高性能でなお且つ圧倒的に信頼性の高い日本の工業製品は、社会インフラや最先端技術分野において世界中で求められていると感じています。こういう支援にVECの新たな取り組みやアリーステージでの活動を期待しております。

■ベンチャーは一生通じてひとつのものでは、ありえない。組織の在り方は変化し、変化に対応できる人間を生み出していくものだ。資源の少ない日本経済の基本は、ここにあると

思うから、私はベンチャーを支援したい。

- VECは本来の姿に戻って、NEEDではなくSEEDを作る支援をすることが大事ではないか？

- 若い人の挑戦を助けて伸ばしてあげたいと思っている。

■今は本来の姿に戻るよい機会。昔はちゃんとした勉強会だったし、面白い内容で面白い人がいた。ちゃんとしたというのは、参加者を客にするのではなく、紳士的な会で他の異業種交流会とは一線を画していた。本来の姿とは、工場見学したりして大阪の「ものづくり」を主体としたコンセプトが明確で、地に足がついていた印象があったのになあ。

■VECには今まで面白い人がいっぱいいて、面白い話が聴けた。高橋産業、フジキン、ダイシン機器(LSDカード)の大木氏、初代理事長荒川氏、遠藤氏(沖電理事長)、梅原克彦氏(仙台市長)、タカヤス産業のマスヤ氏、大阪産業局タテヤ氏など

- VECは債務保証を辞めてから変わったように思う。人が少なくなっていった。

今は支援団体が乱立しており、力を集約されてもいい程だ。

そろそろ今までとは違う方法で支援システムを組む必要があると思う。

時代は変化しているので、面白い人や色んな事に挑戦している若者が集まる場であって欲しい。



大木様

■百々さんにこの世界を教えてもらいハマった。

●昔はよかった。有益な勉強会だったし、面白い人と知り合いになれる場所だったが、今のVEC講演のテーマにもあまり興味が沸かないものが多い。

■日本が今後、国際社会の中でより強く生き残っていくためには、ベンチャー企業の存在が不可欠です。革新と挑戦を担うベンチャーこそが、経済の活力を生み出し、社会の変化に柔軟に対応できる原動力となります。その重要性を若い頃から強く意識し、私は一貫してベンチャーの応援に力を注いできました。

●VECは設立から50年を迎えたのですが、今後は若い世代を中心とした組織運営を目指すべきではないでしょうか。東京本部を含め、組織全体の構成を根本的に見直し、若い世代へとバトンタッチすることで、新たな発想や活力を取り入れた活動が期待されます。

近年では、無料の講演会やセミナーが数多く開催されており、情報発信のスタイルも多様化しています。一方で、VECの活動は有料であることが多く、この従来型のスタイルには限界があるように感じられます。国からの支援の有無や規模については不明ですが、若い世代を中心に据え、仮に支援がなくとも自立的に活動できるような体制づくりが求められているのではないのでしょうか。

■支援はしていない

●講演も聞けて、綿業会館に入れて、飲んで食べてこの値段はお得だし、自分ビジネスを周知できる良い機会です。

■当社創業者もVECにお世話になったから。

●50年を記念に社史編纂してみるのもいいかもしれません。

■自分も若い時、VECの面接で本田宗一郎氏、井深大氏、松下幸之助氏などレジェンドの前でプレゼンをした。こういう経験のおかげで今があるので、それを次世代に繋ぎたい想いがある。

●今のVECの経産省とのパイプはどうなっているのか？ 経産省ならではの、という人脈の面接は貴重な経験だっ



百々様

たし、恩に感じている。それを今の若者にも経験させたい。緊張感あふれる面接を復活させたい。

■若者を支援したい。

●VECは既に債務保証もなく、経産省とも関係が希薄になり、キャピタルやエンタープライズという意味では、もはや外れている。しかし集まって来る人が良くて、実に楽しい。ベンチャー支援講演会の他は、上場目的・営利目的がはっきりしているのはいいが、ギスギスしている。確かに50年前は画期的な存在だったと思うが、今はいい意味で昭和的な温かみのある場所だ。何より人がいい。誰れさんに会いたいと思って参加している（していた）人もいた。

■そろそろ支援側にまわろうと思う。

●他のベンチャー支援団体のイベントと比べても、時代に取り残された感があり、今のままではいけないのではないかな…

■自分も起業の際に色々な方にご支援いただいたから。

●若返りが必須。40代の人に来て欲しい。関西支部長は息子を、事務局長は後輩や部下を連れて来れないか？

■小生のベンチャー支援は新たな繋がりや異業種交流（点から線そして面展開）。

●関西のみならず日本の復活をめざし、ささやかな草の根活動で次の50年をめざそう！

■デジタル機器の保有向上ではあるもののデバインド問題があったことからデジタル推進するための支援が必要であると考えました。もちろん、ないものがあるものにするための事業挑戦でもあったことから最終的に支援事業とする過程の中で当初様々な方に支援を受けることも考え、その志を常に忘れないために、社名にも反映させました。

●高齢化が進み、未来を考慮すると、もっともっと若返りを図りたい。やはり様々なスタートアップ企業との新たな交流を望みます。未来のあたりまえを創造できる若い力が必要不可欠だと感じています。

■私は大学研究室と共同研究窓口やJST（科学技術振興機構）、中小企業基盤整備機構や都道府県中小企業支援機構との情報交換を行っていました。日本で開発された技術は、実は多くの中小零細・ベンチャー企業に支えられています。多くの企業と一緒に仕事をする中で技術の壁を突

き破ろうとする志の高きに感動しました。

一方で理論的裏付けや特許の権利化で稚拙な防衛的特許のみの獲得等の姿も見ると、発展的な自己の技術確立を心より応援する気持ちが高まりました。定年退職した翌日に、素晴らしい技術とそれを商品化する技術を持つ企業とをマッチング、ジョインして新たな事業を創出する狙いで、起業しました。また、定年後にベンチャーキャピタルの技術評価業務に携わったことも大きな意味があり、技術だけを持つ者と事業化・商品化技術を持つ者が協力協同しながら特許権利化して商品ビジネスを展開することです。その接着剤の役割を担うことです。そういう意味ではベンチャーを「応援する」ではなく、ベンチャーと共に歩むことを目指しています。



廣田様

●昨年、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して東京科学大学が誕生しました。高齢化が進む日本で健康寿命の延長は極めて有効なことです。今や最新の工学技術や薬学の進化なしには、医療の最適化は進まないと思われます。そんな難しい世界の要求をやさしくひも解き、各種要素技術の組合せと最適化と判断基準のアルゴリズム確立が求められていると思います。VECの会合に出て、これまで未知の世界だった分野にわずかな光明を見たというチャンスがあればありがたいなと思います。



森下様

編集後記

起業および支援につきご意見いただき、よく検討させていただきます。新規ビジネスをされる方のお話を聞き、私たちも今後の在り方を前向きに展開していくことが前進につながるのだと考えます。いろいろな意見を集約して発展させますので、今後ともよろしくをお願いします。

関西支部長 山脇雅則